



公益財団法人 日本体育協会公認
茨城県スポーツ指導者協議会

会報

第 68 号

平成26年3月22日

発行人

茨城県スポーツ指導者協議会
会 長 照 沼 一 美

事務局 〒306-0204

古河市下大野1463-4

事務局長 鈴 木 義 夫

会員数 1,055 名 (H26.3.1 現在)



平成 25 年度茨城県スポーツ指導者研修会 (全県研修) (H25.8.4 茨城県立青少年会館)

公益財団法人 日本体育協会公認
スポーツ指導者のために

資質向上と
活動の推進を

連帯感を深め
組織的活動を

目 次

会長あいさつ.....	2
平成 25 年度本協議会活動報告	2
平成 25 年度全国公認スポーツ指導者研修会報告	
受賞者あいさつ.....	4～6
支部だより.....	6～9
みんなの広場.....	9～12

ごあいさつ



茨城県スポーツ指導者協議会会長

照沼 一美

茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様、如何お過ごしでしょうか。平成二十六年を迎えるに当たり、この新しき年が我々スポーツ指導者として、より良い年になりますよう、願いを込めて茨城県スポーツ指導者協議会会員の皆様に、ご挨拶を申し上げます。

平成二十五年事業も予定通り滞りなく、すべての事業が終了いたしました。これひとえに役員の皆様の献身的なご努力と、会員の皆様のご協力によるものと感謝の意を表し御礼を申し上げます。

全県研修会においては中央支部を中心に盛大に実施いたしました。支部単位の義務研修会は県西支部、鹿行支部がそれぞれに実施いたしました。それぞれに支部の特徴を出し、役員の皆様の力が前面に出されて、参加者のニーズに応えることが出来たと確信いたしました。

平成二十五年度の養成講習会はボウリング、弓道が行われ、それぞれに新しい仲間、計六五名の

方々が受講され指導者として誕生いたしました。新たな力を有意義に成長させてほしいものです。新公認資格者の皆さんの一人でも多くの方が本協議会へ御入会されるよう望まれます。どうぞ、積極的な御入会をお待ちしております。

毎年の恒例行事になりました、公益法人日本体育協会公認スポーツ指導者の表彰式典が、去る平成二十五年十二月十四日・東京都港区高輪のTKPガーデンシティー品川ホールにおいて、公認指導者の全国研修会に先立ち開催されました。本県からの受賞者は以下の通りです。

▽県スポーツ指導者協議会推薦者

- 佐藤マツ様・バドミントン
 - 伊東和夫様・バレーボール
 - 上野節子様・卓球
 - 堀川一幸様・ソフトボール
- ▽各競技団体推薦者
- 関 誠一様・空手道
 - 竹内芳夫様・水泳

計六名の皆様が受賞されました。誠にめでとうございます。今後更なるご健勝とご活躍をさねますようご期待申し上げます。

式典後の研修会は特別講演に高橋秀実氏により「弱くても勝てます」と題して、講演は「日本スポー

ツ界の体質刷新にむけて」と題してNHKアナウンサーの刈屋富士雄氏により行われました。

表彰式典の前日、十二月十三日渋谷シダックスホールにおいて平成二十五年全国スポーツ指導者連絡会議が都道府県代表者・中央競技団体及び協力団体選出委員により連絡会議が開催されました。

主な内容は

- *指導者育成関連事業の現状について。
- *「スポーツ指導者育成事業推進プラン2013」について。
- *講演は「スポーツ指導者のための倫理ガイドラインについて」を明治大学准教授の高峰修氏により行われました。

平成二十六年度が有資格者それぞれの皆様にとつて、上り坂となり、ご活躍されますよう、ご祈念申し上げます。

終わりにご愛読いただいております、茨城県スポーツ指導者協議会会員各位の益々のご活躍を、更に茨城県スポーツ指導者協議会への格別なる、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

平成二十五年
本協議会活動報告



茨城県スポーツ指導者協議会事務局長

鈴木 義夫

平成二十五年茨城県スポーツ指導者協議会の事業活動をご報告申し上げます。

今年度の本協議会総会は、平成二十五年四月二十八日(日)に水戸市・内原中央公民館で開催し、支部長推薦で総会席上に於いて、茨城県スポーツ指導者協議会長より功労賞を「県北支部長推薦で関根公央様・藤田文子様・梅村恒雄様、中央支部長推薦で高村卓雄様・堀川一幸様」以上五名が表彰されました。

続いて平成二十四年度本協議会事業報告および収支決算報告ならびに平成二十五年本協議会事業計画案および収支予算案を、全会一致でご承認が得られました。

本協議会の主なる事業活動は、研修会「全県研修会および地区研修会」を、毎年三ヶ所の会場で開催し、会報「七月末および三月末」を、毎年二回発行し、さらにそれぞれ支部で独自に研修会開催およ

び会報発行し、地域スポーツ行事に運営協力しております。

今年度の全県研修会「旧・中央研修会」を中央支部および研修委員会主管で、平成二十五年八月四日(日)に水戸市・茨城県立青少年会館で開催し、受講者は一七一名「会員一〇四名・非会員六十七名」の参加がありました。

さらに地区研修会は県西支部主管で、平成二十五年十二月八日(日)に古河市・ユーセンター総和で開催し、受講者七十七名「会員四十三名・非会員三十四名」の参加がありました。

また鹿行支部主管で、平成二十六年二月二日(日)に鹿嶋市・大野まちづくりセンターで開催し、受講者八十六名「会員四十一名・非会員四十五名」の参加がありました。

本協議会は、会報を毎年二回「七月末および三月末」に広報委員会が主管となって、研修会取材、原稿依頼など、編集後に印刷製本が出来上がり次第に会員皆様に会報を発行しております。

以下四名の役員が参加して、さらに平成二十五年公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者等表彰事業に、公益財団法人茨城県体育協会へ本協議会から推薦申請して、県北支部から関根公央様・藤田文子様、中央支部から堀川一幸様の三名が受賞いたしました。

茨城県に所属する公益財団法人日本体育協会スポーツ指導者は、平成二十五年十月一日現在の有資格者登録状況は、三、七〇六名「競技別指導者資格三、四九一名・フィットネス資格二、二五名」であります。

本協議会の市部別に有資格者および会員数は、平成二十五年十一月末現在で「県北支部は有資格者三九三名・会員数一四八名」「水戸支部は有資格者五〇三名・会員数一一四名」「中央支部は有資格者は七八二名・会員数二五三名」「鹿行支部は有資格者二六一名・会員数八十三名」「県南支部は有資格者一、二六二名・会員数三三四名」「県西支部は有資格者四七六名・会員数一、二七名」で、平成二十四年十月一日より十七名の会員増加となりました。

公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者は、資格取得後に義務研修会を四年間に一回以上の参加した実績が無い場合は、資格更新の手続き案内通知が送付され

なくなりません。それで本協議会が主催する研修会「全県研修会および地区研修会」に受講者を、公益財団法人茨城県体育協会を通じて、公益財団法人日本体育協会に義務研修会に参加した実績を書面で提出して、資格更新の案内通知が円滑になるよう会員皆様をご支援いたします。

また本協議会は、毎年三月および九月までに公益財団法人日本体育協会に資格取得された公認スポーツ指導者に会員加入および会員更新の案内文書を送付されましたら、積極的に本協議会の会員加入にご協力を賜りたくお願い申し上げます。

今後とも茨城県スポーツ指導者協議会の発展寄与に事業運営等を、会員皆様の格別なるご理解とご協力を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

会員入会協力への おねがい

会員の皆様、有資格者のお仲間、入会をお勧めいただける様、ご協力をお願いいたします。



鹿行研修会



県西研修会



平成
25年度全国公認スポーツ
指導者研修会報告

受賞者あいさつ



高萩市

伊東和夫

昨年十二月十四日東京品川で平成二十五年度の全国研修会が開かれた。主催者や来賓者の挨拶後

表彰式が行なわれ、同席上で全国一六五名の一人として表彰を賜りました。推薦を賜りました県北支部の皆様を始め関係機関の皆様から感謝を申し上げ厚くお礼申し上げます。私は思いもよらなかつた事だけに大変嬉しくまた恐縮しています。ありがとうございます。式終了後受賞者代表として佐藤マツさん（県北支部）が、お礼の言葉を述べられました。

私は、昭和五十二年地域の「ママさんバレー」を切っ掛けとし「日体協指導者」の資格を取得することが出来ました。六十五才を契機にチームは引退しましたが、現在は市内バレーボール連盟組織で微力ながら活動を続けています。

今回の研修会は「暴力ゼロ心でつなぐスポーツの絆」をテーマに進められた。冒頭監物副会長の挨拶で「私達の使命としてスポーツを通じて社会貢献をしなければならぬが、その一方で信頼や期待を裏切る行為が表面化している。スポーツ界は根絶宣言を採択し努力している。しかし後を絶たない。本会は『フェ

アプレイで日本を元気に』をキヤンペーンにして展開している。この活動を浸透させ少しでも課題に取組めたらと思っている。一層の研鑽を重ねられ活動に対する社会的な評価を得られる様に後押しを進めたい」と挨拶された。その後、講演、ワークシヨップと続いた。講演は

(1) 高橋秀実氏（ノンフィクション作家）「弱くても勝てます」

(2) 刈屋富士雄氏（NHKアナウンサー）「日本スポーツ界の体質刷新にむけて」

二人の講演は、体験や取材を通しての話で具体的で説得力があり大変勉強になりました。今回は紙面の関係で(2)の刈屋氏の話で印象に残った点一部を記述し報告を兼ねたいと思います。

同氏は、アナウンサーの立場から取材を通しての、もう一つの物語を交えながら話してくれ、当時の名勝負を思い浮かべながら聞いた。まず暴力や体罰について、学生時代部活動していた頃は、「強くなる為には当り前という風潮であった。アナウンサーになってからも十数年前までは、疑問に思いながらも否定できなかった」と心境を語る。でも違うと思えたのは数人の指導者取材して「暴力をやめても強い。良い選手は出来る。殴っても痛い事しか覚えていない。何で注意されたか覚えていない」と話す。また

バレーボール金メダリスト元全日本女子河西選手、生前の取材で「殴られた事は一度もない。勝つ為の戦術、技術、トレーニング方法、全部説明を受けた。これらを取得することでも前に進め皆で頑張れた。猛練習と暴力は違う」と話されたと言う。相撲界では、死亡者が出たが、稽古を見て来て「暴力と関係なく努力する力士は強くなる。暴力からは暴力しか生れない。さらにエキサイトする。三十年間取材して断言できる」と話す。「相撲界も暴力はやめようと改善し激減している。日本のスポーツ界も改善要素があるとすれば二〇二〇年に向け大きなチャンスである。生活の面で自由を目指せる環境、選手中心の組織、暴力でない指導方法、強い選手を作る社会的な共通認識これらをどうもてるかどうか？」と話す。「時代の流れでニーズも激変している。興味ないスポーツはオリンピックでもやらない可能性がある」ではこれから現場で何を教えたなら良いのか？取材を通して得た事を話された。「スポーツとは『アイデアを体で表現する』強くなるうと思えばアイデアが浮かぶ。年令と関係なく伸びる。考えながら実行する。また良い環境は少ない。今ある環境で何が出来るか考え、身近な目標を一つ一つクリアし達成感を得る。大成する選手の要素はどん

な環境でも、感謝する気持とプラス思考に考える選手」と話す。また相撲界では「素直と我慢、さらに自分に厳しく努力して出来る品格」と言う。これらの子供達に如何に身に付けさせられるか？指導者自身自覚をもつて指導して戴けたら嬉しい」と話されました。

スポーツのみでなく日常生活にも活かすヒントがあり非常に勉強になりました。今回はありがとうございました。



大子町

堀川 一幸

この度、平成二十五年度公認スポーツ指導者全国研修会において、公益財団法人日本体育協会より公認スポーツ指導者として表彰の栄を賜りました。大変光栄なことと思ひ受賞者として今後の活動の重さを痛感している所です。推薦を頂いた茨城県スポーツ指導者協議会の皆様はじめ、ご尽力をいただいた各関係機関の皆様深く御礼申し上げます。

かえりみみずと資格を取得して三十余年たちますが指導することのむずかしさを痛感することのごろですが「継続は力なり」指導するこ

とより自分の健康を維持するために重きをおき、無理なく楽しく生涯スポーツを楽しむ、また地域の方々の交流研修等に参加しスポーツの普及に寄与出来るよう勉めますので、今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。



日立市

佐藤 マツ

この度、平成二十五年度公益財団法人日本体育協会の公認スポーツ指導者全国研修会に於て、公認スポーツ指導者表彰をいただきました。一緒に受賞された方々の功績を拝見し、この重さをあらためて感じ、身に余る光栄と深く感謝いたします。また茨城県スポーツ指導者協議会、茨城県体育協会、スポーツ指導者県北支部の皆様のご尽力と厚くお礼申し上げます。

研修会は、「暴力〇（ゼロ）心でつなぐスポーツの絆」がメインテーマでした。特別講演は、「弱くても勝てます」高橋秀実氏（ノンフィクション作家）です。著書は開成高校野球部のセオリーを取材したとてもユニークなものです。監督の指導は、弱者の兵法、ドサクサで二気大量得点で勝つための練習、攻撃野球で目指すは甲子園であるとい

う。弱くても勝つという気持が大事であること、生徒には競技の本質を理解してもらっていることで、自主性を尊重していることです。先生自身はとても運動が苦手でしたが、逃げてはいけないう気持はありました。水泳、ボクシング、柔道等の競技を経験して、勝つ事は出来なかつたけれど達成感でいっぱいだったと。競技への愛情をとて大切にされて、体験してのプロセスは、勝ち負けより好きといっています。「日本スポーツ界の体質刷新に向けて」の講演は、刈屋富士雄氏（NHKアナウンサー）でした。

二十年前には、暴力とは思わず臆には体罰が必要と思っていたようです。体質刷新の一つとして、選手中心の組織をつくり、暴力がない指導組織が社会的に浸透していつてほしいものです。

トップ選手ばかりでなく、子供達の可能性を広げるように、他種目のスポーツの出来る子供達を育成していくことも必要である。

「これからの時代に求められる指導者とは」松尾哲矢氏（立教大学コミュニケーション福祉学部長）の講演は、数人のグループに分かれて、①良い指導者とは。②スポーツにおける暴力は何故なくならないのか。③今後はどのような指導者になろうとしたいのか。以上についてディスカッションしました。今後の指導者

については、数人が発表しました。わくわくさせる指導者に。笑顔が素敵な子供にする。誰とも楽しめる。選手とともに成長する。コミュニケーションを大切に選手を大事に。対話を大事にする。自分で考えられる競技者、愛好者の育成のできる。等でした。

今回研修会に出席し、運動する人達にスポーツの楽しさを伝えることの大切さ、対話を大事に「生涯スポーツの普及」に今後もスポーツ指導者として、微力ではありますが、努力を続けて行きたいとあらためて思いました。

今後共、皆様の変わらぬご指導の程宜しくお願い致します。ありがとうございました。



東海村

上野 節子

この度、平成二十五年度日本体育協会のスポーツ指導者表彰をいただきました。スポーツ指導者協議会中央支部、東海村体育協会、並びに東海村卓球連盟の推薦をいただき、心より感謝申し上げます。

表彰の当日はJRの事故で、電車が大幅に遅れ、品川の会場には時間ギリギリでやっと到着するというハプニングがあり、印象がより

深いものになりました。

講演では、NHKアナウンサーの刈屋富士雄さんの話が、とても楽しく又勉強になりました。仕事柄、一流のスポーツマンとの交際の中でのエピソードなどを織り込んで、スポーツの神ずい、考え方などすばらしいお話を聞かせていただきました。

振り返ってみますと、昭和五十四年に資格を取ってから三十余年、本当に長い年月が過ぎたのだなど、しみじみ感じております。

地域での指導活動ののち昭和五十六年から六年間、札幌市に住みました。札幌での卓球活動の中で、指導の勉強と実践をたくさんさせていただきましたが、私にとつての指導の原点は、そこでの経験にあると思っております。

又、東海村に戻って地域での活動を続けております。

私はただただ卓球が好きで、又周りの方達に恵まれて続けていますが、指導の基本は、スポーツの楽しさを感じて、好きになってもらう事ではないかと、今自分を振り返って思っています。

又専門分野だけでなく、広くスポーツを楽しんで生涯スポーツを見つけてほしいと願って活動しています。

これからも先輩方の指導をいただき、学びながら、少しでもお役に立てるよう努力してゆくつもりです。どうぞよろしくお願いいたします

支部だより

鹿行支部

支部長 島田昌和

鹿行支部では、年二回の研修会を行ってている。一回目は五・六月の総会時、二回目は十一月か二月に行っている。このための役員会を二回ないし三回、そして、支部のあり方その他について年度末反省会を行ってている。

広報活動は支部だよりを発行し研修会等への参加を呼びかけたり情報交換の場を設けたりしている。

個々の有資格者は、それぞれ独自に市町村の体育協会やクラブ、チームに所属し活動したり、クラブの指導者として活動している方も多い。

役員会のメンバー構成は鹿行五市の担当者と各市指導者の代表の十四名である。行政担当者にはいろいろなパイプ役としてお世話になっている。

市町村の指導者協議会がまだなく、市町村一支部一県というラインができたらいなと考えています。また、研修会時等の参加者が少ないので、都合のつく方は出席をお願いいたします。その他、多くの課題解決のためにも支部活動を充実させ、PR活動をしていきたいと思っております。ご意見をお寄せ下さい。

日本体育協会からフェアプレー宣言が出された。そして具体的目標が示された。日本体育協会では『フェアプレーを広げていくため』あくしゆ、あいさつ、ありがとう』を推進します。

フェアプレー七ヶ条

- 一、約束を守ろう
- 二、感謝しよう
- 三、全力をつくそう
- 四、挑戦しよう
- 五、仲間を信じよう
- 六、思いやりを持とう
- 七、たのしもう

スポーツの場面ばかりでなく、日常生活の中でも、自分の考えや行動について善いことか悪いことかを自分の意志で決められること、恥ずかしくない判断ができる心、魂のことをいいます。』と提唱している。指導者として常にこのことを心において指導にあたり生活したものである。

茨城県国体や東京オリンピックが開催される。これを機会に関係機関、各種指導者が連携をとり県民や国民が総スポーツに親しむ環境づくりが展開されようとしています。このことにも協力していきたいと思っております。また、地域で熱心にスポーツクラブの指導にあたられている方も多く、このスポーツクラブ、クラブ育ちの選手が国体で、オリンピックでたくさん活躍しそうな気がする。

県南支部

支部長 櫻井孝之

平成二十五年度支部総会を開催し本年度支部役員を新たに選出致しました。会員の皆様のご協力に感謝致します。とは言え未だ広報委員及び守谷市、土浦市の支部代議員が空席となっておりますので、会員の皆様のご協力を重ねてお願い致します。今年度は県南地区での地区研修会は開催致しません。

現在県南地区の有資格者数は2月現在一、二五六名、会員数は三二四名です。

今年度の目標は県南支部広報紙の充実を図り会員相互の情報交換を充実して参りたいと考えております。会員の皆様のご意見、協議会に対する要望、日常活動のご苦勞など、幅広い問題提起をお寄せ頂き、今後の協議会活動に活かしたいと思います。

平成二十三年新たに国のスポーツ基本法が制定され、日本も新たにスポーツへの概念を捉え直す時代になりました。暴力や体罰やパワーハラスメント問題を真摯に受け止めて、コーチングスキルに關してもう一度考察し、活発な議論を通じて指導の場に活かして行く事が重要になって参りました。社会が求めているスポーツへの期待は多様であり、私たちもその見識

とスキルを活かし活動の幅を広げ協議会の目的でもある、地位向上に繋がればと思います。又反面指導者の資質能力が問われている時代になってしまったとも言える。

優先されるべきは、プレイヤーが積極的にスポーツを楽しむ、勝つ喜び、負ける悔しさを味わう事の出来る環境を作る事であり、安全かつ公正な環境の下では、選手との関係が「横の関係」になることであり、考えさせ工夫し、出来たときの達成感の喜びを味合せるような指導が理想であろう。当協議会においても、様々な指導実践の事例を研究協議出来る場が持てたらと願っております。最後に会員の皆様に様々な要望問題提起をお願いし、皆様の益々のご活躍を祈念致します。

県西支部

事務局長

近藤 康雄

平成25年度茨城県スポーツ指導者研修会（県西地区研修）を昨年12月8日（日）に古河市ユーセンター総和で開催致しました。

開催日前日の7日にも出席依頼FAXが届き、合計91名の参加予定でしたが当日のキャンセルもあり、会員43名、非会員34名、合計77名の参加で開催致しました。地

区別で見ると県西・県南で参加者の80%強、県外からも栃木県、東京都からも各1名づつ参加して頂きました。

講演Iでは公益財団法人日本陸上競技連盟、顧問の桜井孝次先生より「スポーツの指導方法について」と題して、選手・指導者の体験を生かした講義を拝聴致しました。2020年に東京オリンピックが開催されるとの事から先生御本人がオリンピック3大会連続出場、陸上競技生活で3人の師に三人三様の指導方法を学んだそうです。一人は「無言で指導」一人は「精神力の指導」最後の方は「技術的指導」だったそうです。2019年、東京オリンピックの前年に茨城国体が開催されます。本日、参加されている指導者の方々に協力のお願がありました。

講演IIでは「トレーニングの科学」傷害の予防とトレーニングの理論・実際と題して、東京有明医療大学講師、笹木正悟先生から「ケガの原因？」「トレーニングの原理・原則。トレーニングの五原則をわかりやすく又、直近の試合中に実際に行ったケガの状況のビデオを映像で見せて頂き、又、ホール壇上で模範演技も交えて一時間半では足りないくらいに充実した内容の講義でした。お二人の講師の方々には大変お忙しい中、あり

がとうございました。

今回、県西支部が主管として研修会を開催するにあたり、支部役員以外の方々にご協力を頂き無事終了致しました事を紙面をお借りして御礼申し上げます。

県西支部会員145名（7月1日付）総会を年一回開催しております。今年度は新たな試みとして筑西方面で開催を計画しております。多くの会員の方々の出席をお待ちしております。

この会報をご覧になり、御意見、御要望がありましたら

〒306-0052

古河市大山1543-13

県西支部事務局 近藤康雄

TEL・FAX

0280-481-1911

までお願いいたします。

水戸支部

支部長

吉田 広光

平成二十五年の活動もまもなく

終わりに来ております。計画通り五月二十五日の総会及び研修会の開催、又八月四日には中央支部主管の全県研修会・県立青少年会館にて開催一七一名、水戸からは会員二十八名、非会員一六名の方が研修に参加され推進事業が目標準り会員の皆様の協力に感謝を申し

上げます。日本体育協会会誌の有資格者は資質向上と活動の推進及び指導者の連帯感を深めるため四年に一度の研修を受けなければならぬとされており、十二月八日県西地区に於いて研修会が開催され、水戸支部より六名の方が研修に受講されております。十二月に入り平成二十五年公益財団法人日本体育協会における「全国スポーツ指導者連絡会議」が十三日岸記念体育館にて開催され「関東各県の代表及び所属の出席による「暴力根絶に向けた取り組みについて」議題この問題点に各県ごとの取り組みを協議。各県ごとの情報交換を行い暴力根絶に向けての結論はでませんでしたが、各県に実施する研修要望に期待をすることで了承した。茨城県スポーツ指導者協議会としては平成二十七年頃までには対処として茨城県体育協会、又各界の研修指導を受け目標達成に研鑽して行きたいと考えております。

目標

一、暴力体罰に指導者・競技者又は保護者への啓発活動を実行する。

一、強くなるための勝利を目指すためには暴力は有害である

一、スポーツ界の共通点を考

え今後の各界の情報を取得し対処する

茨城県の計画目標を説明し五時三十分閉会とした。十二月十四日東京都港区ガーデンシティ品川にて日本体育協会、平成二十五年度公認スポーツ指導者全国研修会が開催され、始めに指導者表彰、特別講演「ノンフィクション作家高橋秀実」。NHKアナウンサー刈屋富士雄氏、又日本体育協会会長張富士夫様の開会の挨拶があり、スポーツの指導育成及び組織化、競技力の向上そして公認スポーツ指導者制度の発展その他国民スポーツの振興に貢献した者のうち特に顕著な功績があった者とされている茨城県からは競技団体より三名、協議会より三名の方がこの功績を受賞され本当におめでとうございます。ますますのスポーツ活動に期待をしております。二十六年八月三日水戸支部主管に全県研修会を予定しております。会場時間は決定次第、事務局より連絡申し上げます。日頃スポーツ活動に活躍されている皆様にも多くの参加を望んでおります。

中央支部

事務局

野々村 律子

平成二十六年年度総会を、四月五日(土) ひたちなか市松戸体育館

研修室で開催するという事で、準備を始めております。

支部恒例の上級救命更新講習を六月に、資格取得講習を七月に、ひたちなか市消防署でと企画しております。尚支部研修会は、茨城県スポーツ指導者協議会中央研修会日時決定後、ちょうど良い時期に笠松運動公園多目的室で、開催予定であります。期日、内容は日本体育協会資格更新事業となる様に、総会時に討議、決定致します。会員の声が生かされる研修が出来ればと考えております。

支部として、本格的に後進育成というか、若い人達への活動及び入会呼びかけ、役員協力依頼という事を、積極的にそっせんして行います。

今、活動出来る事、出来る範囲で、自分の競技技活動と共にスポーツ指導者の主旨にのっとった行動をと思いますが、五年後、十年後と視野に添えて、良い形で組織を引き継ぎ、より良い物になる事を望み、若い人達の気持の中に訴えて行ければと思います。新年度に向けて、気を新たに!!

県北支部

支部長

野内 康二

前号で「日立市さくらロードレース」助成事業と「支部総会」

を報告したので、それ以降現在までの事業を時系列にすると、

- ・ 八月五日 支部会報「あみー」
- ・ 第四二号発行 広報委員
- ・ 十月二六〜二七日 「女性センター祭り」放送係十一名参加
- ・ 十一月十一日 「役員研修」二本松市 十四名参加
- ・ 十一月二四日 常陸太田市市民「グラウンドゴルフ大会」運営協力 五名参加

の四事業になります。役員の方々が、それぞれの持ち場で、しっかりと活動して頂いているので、これ等の活動が達成できました。何時もながらのご協力に、心から感謝しています。

今回は、これ等の活動の中から「役員研修」について紹介します。

県北支部での「役員研修」会は平成二年頃より始まりました。当初は、グラウンドゴルフやキックベースボール等々の技術習得がメインでしたが、次第にハイキングやバーベキュー、宿泊研修、一泊研修も行うようになりました。今でも一泊研修の提案を頂きますが、多数での参加が難しく、やむなく日帰り研修を実施しているのが現状です。そんなわけで今回も小型バスを貸し切つての日帰り研修になりました。

役員研修は、岡部支部研修委員長指導で行われ、目的地を福島県

二本松市「二本松少年隊の墓(大隣寺)」「県立霞ヶ城公園」「智恵子の生家・智恵子記念館」三か所の見学に定め、綿密な計画の下私たちは出発しました。

行程や見学の詳細を割愛させて頂き、皆様に紹介したいのは、二本松観光協会「県立霞ヶ城公園」ボランティアガイドの方の素晴しさです。

年齢八三歳とか、中背引き締まった身体、軽快な身ごなし、良く通る声と巧みな話術で、私たちが今まで見たことのない「霞ヶ城公園」の魅力が堪能させて頂きました。

曰く、藩主は丹羽氏、江戸崎二万石、棚倉五万石を経て、寛永二十年、織田家宿老(丹羽長秀)の孫(光重)二本松二十万石丹羽家初代藩主となる。着任後、町造りを優先善政を布いた。「菊祭り」では、菊の見かた、種類、育て方、菊人形の作り方等々を教えてくださいました。

「洗心亭(茶室)」では、(光重)公ここにて病氣療養中、大甥(浅野内匠頭)刃傷の知らせを受け、使者に「斬つたか、突いたかと」と問うた。答えを聞き「突いておれば本懐を…」の一言が藩主として継承され、戊辰戦争二本松少年隊(成田才二郎)の戦功と凄惨な

結末に繋がるうとは…。

彼の案内は自信に満ち、これぞ

天職、ボランテアガイドの楽しさと充実感に満ち溢れていました。

私たちの活動もこのようにありたいと思います。

「二十一世紀の国民スポーツ推進方策」スポーツ推進2013」に「自発的」「内発的」動機

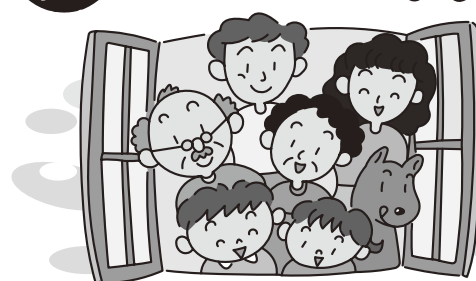
の大切さが説かれていました。彼の充実感もまた内発的動機によるものと推察できます。ボランテアガイドを始めて十八年、彼の永年の努力に心より敬意を表し、私たちは帰途につきました。

十二月四日全国大会に於いて当支部伊東・佐藤両氏が永年の努力と功績を認められ表彰されました。誠におめでとございませう。特に佐藤さんにおかれましては、代表謝辞を務められ、この上ない名譽なことに心よりお祝い申し上げます。

また、当支部といたしましたも小沢・梅村の両理事が同行し、両氏の喜びを見届けましたことをご報告申し上げますとともに、この受賞に際し、ご尽力下さいました関係各位に、衷心より厚くお礼申し上げます。県北支部の活動報告といたします。



みんなの広場



新しい年を迎えて



日立市
石川貴江子

新しい年を迎えた我家に突然、うれしいニュースが舞い込みました。仕事の関係で他県へ単身赴任する事になったのです。あの大震災後、家の片づけもそこそこに家族を残し、あわただしく赴任先に向って行った三年前の姿を思い出

し思わず涙がこぼれそうになってしまいました。「よく頑張ったね」と、声をかけてお互いニッコリ!! 我家の新年は笑顔で明けました。

「アウト!」「ラインにかかってるよ。でも、高体連ジャッジならア・ウ・ト!」隣のコーチから信じられない会話が飛び込んできた。

テニスのジャッジ

土浦市 梶原 匡子

記者会見では小学生の頃から抱き続けてきた夢が叶ったと、流暢な英語で時にユーモアを交え語っていました。実力、努力が伴ってこそその結果なのでしょうが、本当にすごいと思います。夢を持ち努力を続ける事は大切だと思いましたが、凛とした彼の姿からパワーが直じかに伝わってくる様な不思議な感覚にとらわれました。夢を持つにはちよつと年齢がと言わざるを得ない私なのですが、仲間の皆ともう少しバドミントンを続けたいのでその為の何か?をやってみようと決心しました。体力維持の為のストレッチとウォーキング、続けてみようと思えます。そして一生けん命頑張っている人、努力している人、どんな人にも夢が倍返しになって叶うと良いなと思っています。



全日本テニス・ベテラン選手権に出場して20年の私、セルフジャッジトラブルに悩み、何度試合出場をやめたくなったことか? 日本テニス協会宛に800人の署名を集め、SCUシステム*導入を要望したが却下された。昨今の世界プロテニスATPチャレンジシステムで証明されているように、正確なジャッジは不可能。と言っても、悪意に満ちた故意のジャッジはあつてはならない。元デ杯選手、日本テニス協会強化本部長の渡邊康二さんが、「ベストプレーヤー」と「ワーストプレーヤー」を、大会会場で参加者が投票することが提案され、うわさが流れた。そのせいか、悪意に満ちた汚いジャッジは少なくなつた。高校の大会でも、若者に相応しく清廉潔白なジャッジがされるよう、こういった取組みを取り入れて欲しい。優勝者を讃えるだけでなく、きれいなジャッジのプレー

ヤー、ベストプレーヤーを表彰する機会を設け、スポーツの根本理念を啓蒙していただきたい。「高体連でイン！」という会話が、隣のコートから聞こえる日がくることを願います。

*注 SCU・ソロチェアンパイア方式：プレーヤーチームは自分側の判定をする。SCUは明らかに間違っているとは判断した場合、直ちに「アウト」のコールを「グッド」とオーバールール出来る。

ジュニアとの出会い



東海ジュニア
テニスクラブ代表
木村 邦子

2020年東京五輪・パラリンピック競技大会が昨年9月日本に決まり組織委員長に森喜朗元首相に決まり、また2019年には2回目の茨城国体が開催されるスポーツの祭典が予定されています。

さて振り返ってみると、私が東海ジュニアテニスクラブと出会った頃を思い出します。30年余り前、県南の試合に行ったおり、土

浦京成ホテルテニスクラブで子供たちが大きなラケットを持って楽しくレッスンを受けている様子を見て、県北のジュニアにテニスの楽しさを教えてあげたいと思いました。1979年頃から我が子とその友達4〜5人で東海原科研コートで学校前の早朝練習が始まりました。ある時先輩のご指導で1981年6月に東海ジュニアテニスクラブを発足しました。近隣のジュニアが沢山入会、現役会員58名になりコーチも3〜4人になりました。1980年より東海コートのオーナーのご厚意により10年間破格のコート代で貸して頂き助かりました。冬場は雪を掃き凍ったコートでのテニス、これも楽しい思い出です。1989年にジャスコ（現在イオン）が建設される事になり東海村コート、笠松コートが練習場になりました。1986年〜2000年の間、全国高校総体、全国中学生大会、全国小学生大会、常時関東大会に出場しました。これもコーチの皆様のご指導と会員の父兄の皆様のご協力の賜です。指導に当たり1987年より日本テニス協会指導員の資格を始め、日本体育協会公認スポーツ指導者、JTA公認レイト査定員と資格を取得しました。1985年より茨城県テニス協会のジュニア委員、茨城県テ

ニス協会指導員として現在に至っております。協会の強化練習等に参加させて頂きご指導を受けました。最近では県大会のレベルも高く我がクラブの選手はなかなか出場出来なくなりましたが、目標と夢に向って練習を重ね自分の力を発揮できるように共に頑張っております。これからもテニスの普及と共にテニスの楽しさ、テニス大好きなジュニアの育成、続ける事の大切さ、礼儀作法等楽しいスポーツを目指して次の世代に伝えて行けたら良いなと思っております。

2010年より生涯スポーツ、那珂市総合型地域スポーツクラブ（ひまわりスポーツクラブ）に運営委員として楽しい指導を目指して活動して行きたいと思っております。

外で汗と笑顔をつくり出そう

鹿行支部副支部長 君和田治也

2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会開催が決定した瞬間、感動や喜びに溢れた映像を見て、目標に向かって全力を

尽くした方々の素直な表われであり、素晴らしいと感じたのは、指導者の中でもたたくさんの方がいられたのだと思います。又、茨城国体も2019年開催されます。国体をやって良かった、感動したと思える様、各競技指導者の皆様も全力を尽くして頑張りましょう。

各種スポーツ競技団体でも準備が進められていると思いますが、5・6年後の若さあふれる主役は小学校5・6年生であり、又、大学を卒業され社会人2年目になる今の高校3年生位の方々です。この年代の一人一人にいち早く「茨城国体で活躍するぞ！」と思う気持ちを持って頂くのが重要なのではないかと思います。

話が変わりますが、昨年愛犬をドッグスクールへ入れた時、犬にいろいろ教える時は、家の中ではなく外でしつけなさいとアドバイスされました。実際犬は家の中では我がまま、甘えたり、吠えたりで、なかなか言う事を聞きません。しかし、外に出ると少し緊張するのかわかりませんが、犬にも社会性を持たせるために外での躰を行う事が必要だと改めて思いました。

子供たちが家の中でゲームばかりを行っている事が多いと実感しているこの頃です。是非、家族で外に出て一緒に体を動かしてみ

ではどうでしょうか。

汗をかいてすがすがしい気持ちになれたら素晴らしい事だと思えます。あたり前のようですが、なかなか実行する事は大変と思えます。子供に体力や社会性を身に付ける事も出来ませんので今年には家族で近くの公園等で歓声を上げ、汗をかいてはいかがでしょうか。

追伸：「タグラグビー紹介」

体のぶつかり合いの無い、転ばない、ボールを手を持って自由に走りトライをとる鬼ごっこのような誰でも出来るやさしいスポーツがありますよ。推薦しますよ！

是非、いろいろなスポーツを外で行い、汗と笑顔に出会える事を期待します。

ソフトボールの 審判員をやって

水戸支部 光田 靖広

私が、ソフトボールの審判資格を取ったのは、町内会のお父さんソフトボールチームの一員でプレイをし、なおかつ子供会のソフトボールチームのコーチをやっていたときでした。(コーチといつても子供会の大会がある時期の夏休みの期間だけ。)

きっかけは自分自身、ソフトボールをやっていて、なおかつ子供を教えているのに、ボールを投げる、投げられたボールを打つ、打たれたボールを捕る等プレイを行うだけで、最低限のルールは知っていても詳しいルールは知らず、これでよいプレイができるのか、子供に教えられるのかと躊躇ったからです。

審判資格をとるやすぐに、子供会大会の審判を行うようになり、人とのつながりもでき県の大会にも参加させていただき、上級の資格をも取らせていただきました。

上級の資格を取ったところには、子供会のチーム数も減り、子供を教えるということはなくなりましたが、そのころには審判の面白さ難しさを知り、シーズン時期は土曜・日曜の休みがないほど審判をやった時期もありました。

練習試合、大会等で審判をやっていると、いろいろな指導者と出会う機会があります。

競技技術は言うまでもなく、一般人としての礼儀作法をも教える指導者、勝ちにこだわるズル(スポーツマンとしてのフェアプレイを欠く行為)を教える指導者、一つのミスを取りつてもねちねちと言いつつ続ける指導者、ミスに対しては原因を理解させ、よいプレイをしたときには褒める指導者等

指導方法もいろいろです。

現在、体罰が社会的に問題にもなっているため、ミスをした選手に対し、昔のようにバットの柄でヘルメットの上から頭をたたいたり、罵声をあびせる指導者は見受けられなくなってきましたが、まだまだミスに対し怒鳴り付けたり、よいプレイをしたにも関わらず褒めることをしない指導者は多いように思われます。

私も審判員を指導するとき「なぜこのくらいのができないのか、できて当たり前」との気持ちから、怒鳴ってしまうことが多々あります。

以前、市の大会で、ある審判員の判定の姿勢がよかったので、「○さん判定するときの姿勢がよくなったね」と声をかけたときがありました。後でその審判員から、「判定姿勢を褒められた時とてもうれしかった。やる気ができました」といわれました。その時から、怒つてばかりでは、本人の気持ちを萎縮させてしまいやる気をだすためには逆効果になっているのではなにかと思うようになり、その人のよいところを見つけ、できれば褒めてあげるよう努力しようと思っています。(まだまだできていませんが)

あるチームの監督が「三つ叱つて五つ褒め七つ教えて選手は育

つ」といっていました。

各スポーツ競技の指導者のみなさん、強くするために怒るのも大事かもしれませんが、褒めてやりやる気を出させ、できないことができるようにするのも指導の一つではないでしょうか。

スポーツ指導者

有資格者となつて



古河市 峰 淳一

私の専門競技は剣道ですが、一昨年にジュニアスポーツ指導員資格を取得しています。

理由の一つには私の所属するスポーツ少年団でも団員が激減している事。少子化に加え剣道だけの魅力が伝わらないことへの打開策として、看板は剣道でもレクリエーション、スポーツ教室といった入口を作りたい思いからです。

「思いつき」や「剣道をあきらめてる」などと口にする方もいらつしやいますが、危機的現状になんのアクションも起こさずにいられる状況でもなく、やれることはなんでもやっておきたいので

す。
さてここで、「クラブの存続を
図るのか？」ということ突き詰
めていきましよう。この場では「歴
史あるクラブを次世代に受け継が
せたい」、「巣立った団員の帰る場
所を守ってあげたい」などと書い
ておいた方がいいのでしょうか、
正直なことをいうと自分のレベル
で剣道出来る場所を確保したい
ということになります。剣道の団
体には競技志向の強いところや、
「道場」のようないわゆる「ホンキ
」の人たちのところもあります、
健康のために続けたいとか、ある
程度の礼儀作法を学んでみたいと
かいう人に対しても剣道の入口が
あったっていいじゃないかと思
うのです。小学校から中学上がり、
部活で他競技を選択しても剣道ス
ポーツ少年団で培った基礎運動能
力を以て活躍できるようにアシス
トすることを目的に存在してもい
いじゃないかと思うのです。
ただそれには剣道の知識だけで
は不足があるので、それを補う手
法としてのジュニアスポーツ指導
員であり、他競技や安全管理など
の情報収集のための協議会入会と
なったわけでありませう。そのよう
なわけで協議会に期待するところ
も大きく、また役に立ちたいとも
思うところでもあります。



全県研修会



全国研修会

お知らせ

住所変更及び改姓した場合
必ず変更届をして下さい。

【連絡先】 〒306-0204
茨城県スポーツ指導者協議会
事務局 古河市下大野1463-4
鈴木 義夫
TEL 0280-92-4555
FAX 0280-92-4555

ホームページ開設



www.ibaraki-sports.or.jp/



県北役員研修

編集後記

第六十八号会報発行に
当たり皆様に原稿を賜り
心から感謝申し上げます。

ご愛読いただける会報と
なるよう努力してまいり
ますので、皆様の忌憚の
ないご意見をお寄せ頂き
たいと思います。

次回の会報発行は

平成二十六年七月

広報委員会

広報委員長

岡野 秀一

広報委員

- 佐藤 マツ(県北支部)
- 舛井 幸子(水戸支部)
- 柏葉 光子(中央支部)
- 君和田治也(鹿行支部)
- 櫻井 孝之(県南支部)
- 又村 和子(県西支部)